

事業名	知的障害児援護費			調書番号	27
細事業名	在宅心身障害児療育キャンプ費	財務コード	082204		
担当部課室	福祉保健 部 障害福祉 課 地域生活支援 担当 (内線)	3219			

事業の概要			
実施期間	始期 S44 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(委託)		
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	在宅の心身障害児(者)及び保護者	宿泊等の集団生活や健常児(者)との交流等を通して、療育活動が行われ、社会性と生活力が高まっている。	障害児(者)の社会参加の促進
内容	在宅の心身障害児(者)とその保護者を対象として、集団指導及び家庭における療育技術の指導を行い、福祉の向上を図るとともに障害児(者)と健常児(者)相互の理解を深める場とする(キャンプファイヤー等レクリエーションを通じて障害児(者)や家族と健常児(者)の相互交流を深める) 委託先 山梨県肢体不自由児協会 内容 毎年8月上旬に1泊2日で県立八ヶ岳少年自然の家にてキャンプを開催(H29は7月28, 29日開催)		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)									
区分	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
活動指標	参加人数	目標	100	100.0	100.0	100.0	70.0	60.0	60.0
		実績(見込)	89	46.0	58.0	31.0	41.0	25.0	
		達成率	89.0	46.0	58.0	31.0	58.6	41.7	
		達成区分	b	c	c	d	c	c	
成果指標		目標							
		実績(見込)							
		達成率							
		達成区分							
決算(予算) 単位:千円		419	309	358	177	249	329	227	

事業の評価(平成28年度の業績評価)			
活動指標	c	評価	近年、障害者施設や団体が主催するキャンプ事業等の機会が増えている。安価な費用負担(1人1500円)で参加することが可能ではあるが、参加の条件として保護者同伴が求められる本事業が敬遠されている。少数の障害児者の機会提供のためにかかる職員の仕事負担は大きく、また費用対効果を考えて場合、事業存続が必要かどうかを再考する必要がある。
成果指標	c		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)			
県関与の必要性	判定	<input type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input checked="" type="checkbox"/> 必要性が低い	
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input checked="" type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	説明	同様の事業を民間で行っている例もあるが、参加費が本事業よりも高い場合が多く見られ、安価で家族が共に参加できる本事業は障害児(者)を持つ家庭にとっては有益なものとなっている	
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない	
	説明	開催時期、曜日を検討することで参加者の増加はある程度見込める	
見直しの余地	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input type="checkbox"/> 見直す余地がない	
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	説明		
見直しの必要性	有	年々参加者は減少しており、類似した事業を民間が行っている例もある。また、丸二日間職員が拘束されるなど事務的な手間も多くなることを鑑みると、廃止もしくは縮小も検討しなければならない。	

見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)	
縮小	説明 一定の需要はあるが、年々参加者数が減少していることから、事業規模を縮小する。現在、金曜日～土曜日の1泊2日で開催しているが、土曜日～日曜日の開催を望む声も多いため、H30年度から土曜日～日曜日の1泊2日で開催する。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、「見直しの必要性」を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。